

# 世界最大の震動台を作ります

防災科研では、実物と同じ構造物がどう壊れるか、どこまで壊れるか、なぜ壊れるかを、実際に発生するのと同じ地震動により実験的に解明し、被害を革新的に軽減するための研究施設「実大三次元震動破壊実験施設」の整備を進めています。

平成7年1月17日に発生し、6千人を超える多数の犠牲者を出した「阪神・淡路大震災」の教訓から、極めて強い地震の揺れに対しては、構造物にある程度の被害を許した上で人命は守るという新しい耐震技術が導入されています。この施設の建設計画はそのような考えを三次元の震動で検証するため、平成7年度にスタートしました。

平成7年度から、実験装置の主要部分となる超大型加振機構の要素技術開発に着手し、平成10年度に検証試験を終了しました。平成10年度からは、実大三次元震動破壊実験装置の製作を鋭意推進しています。平成10年度に施設の基本設計、11年度に実施設計を行い、この度、震動台基礎の建設に着工する運びとなりました。

3月4日(土)、兵庫県が神戸市の北に隣接する三木市に、現在建設中の三木震災記念公園（仮称）内の建設地において執り行われた同施設の震動台基礎外工事の起工式では、地元兵庫県や三木市を含む170名を越える関係者が集



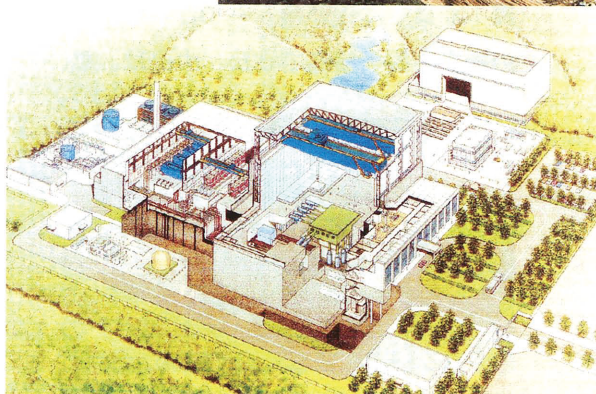
「エイ(栄)、エイ、エイ」と鉄入れをする片山所長

まる中、片山防災科研所長による鉄入れが行われました。

今後、実験棟などの建設、装置・機器の据え付けなどの工事を行い、阪神・淡路大震災から10年目にあたる平成17年初頭の完成時には、世界最大の震動実験施設が日本に誕生することになります。

(問い合わせ先：管理部企画課)

造成工事中の建設地



完成予想図